



こむぎ たね なが け やくめ 小麦の種についている長い毛は、どんな役目があるの

たね とお はこ 種を遠くへ運んでもらう、しかけ

はたけ みの こむぎ み たね さき なが け
畑で実った小麦のほをよく見ると、1つぶごとに、実(種)の先に長い毛がついていま
す。これを、「のぎ」といいます。小麦、大麦、イネ、エンバクなどイネの仲間の種には、
なが
長さにはちがいがありますが、この「のぎ」があります。

「のぎ」は、そばをとお とうぶつ からだ け
して、種を遠くまで運んでもらうための、しかけの一つです。

やせい しょくぶつ たね お 野生の植物は、種が落ちやすい

やせい しょくぶつ ほうほう たね ち なかま たね
野生の植物は、いろいろな方法で、種をまき散らしています。イネの仲間の種にある「の
ぎ」も、そのための道具の一つです。

イネや麦は、むぎ むかし しょくぶつ ひんしゅかいりょう やせい なかま
昔から、さいばい植物として品種改良されてきました。野生の仲間と、
どこがちがってきたかという、1本のくきにつく実が多いことです。さらに、種が、こぼ
れ落ちにくいことです。さいばい品種は、ほん み おお みの たね
一つぶでも多く実るように、さらに、かりと
ときには、たね かんたん お かいりょう
種が簡単にこぼれ落ちないように、改良されてきたのです。

やせい
野生のイネやムギは、ちよっとさわるだけで、ぼろりと種が落ち、動物の毛にくっついて
はこ
運ばれやすくなっています。(監修・矢野 亮)

小麦のほ

